

飯舘村長泥地区環境再生事業技術検討ワーキンググループ（第4回）

議事要旨

日 時	令和元年6月24日（月）13：30～15：30		
場 所	飯舘村役場 2階委員会室		
出席者	委 員	飯舘村	<ul style="list-style-type: none"> ・飯舘村長泥行政区 鳴原 清三 ・飯舘村内農業有識者 菅野 元一
		学識経験者	<ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人放射線安全フォーラム 理事 多田 順一郎 ・国立研究開発法人農業・食品作業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター 環境情報基盤研究領域 土壤資源評価ユニット兼本部企画戦略本部 上級研究員 万福 裕造
	事務局等	<ul style="list-style-type: none"> ・飯舘村復興対策課・建設課 ・環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室 ・福島地方環境事務所中間貯蔵部中間貯蔵総括課土壤再生利用推進室 ・原子力安全研究協会 ・内閣府支援チーム ・復興庁福島復興局 ・除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合 ・サンコーコンサルタント 	
議事要旨	<p>○事務局より「放射線安全性の検証方法について」の説明を行った後、質疑応答により以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の住民の方に理解していただけるよう、濃度分別機による分別の様子をしっかりと見ていただけるように配慮すること。 <p>○事務局より「避難指示区域内における活動について」の説明を行った後、質疑応答により、以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区域内に自動販売機を設置することを検討すること。なお、コミュニティセンター跡地に設置している自動販売機を長泥地区住民が利用できるように環境省は調整すること。 <p>○事務局より「試験栽培の現況について」の説明を行った後、質疑応答により以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポット試験では改質材1種類、混入率8%で実施しているが、業者によっては改質材の種類も異なることを踏まえ、数種類の改質材を用いた試験ケースを検討すること。 ・溶出試験の条件やゼオライトの効果等について、誤解を招かないよう説明を追記すること。 <p>○事務局より参考資料1「土壌の呼び方」の説明を行った後、質疑応答により以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『遮へい土（山砂）』については、遮へい土が赤土の場合もあるため、『（山砂）』を削除すること。 <p>○参考資料2「実証事業におけるモニタリング結果」の説明は省略したが、以下の指摘があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンチレーションサーベメータによる空間線量率の測定は方向依存性がないため、検出部の方向を示す表示はしないこと。 		

・ 空气中放射能濃度の検出限界値が不必要に小さいことから、測定結果についての表記を見直すこと。

○その他

・ 今後のマスコミ、飯舘村役場の職員及び飯舘村の長泥行政区以外の区長等への事業内容の公開方法や情報発信について検討すること。

以上